



— 第26回大会長挨拶 —

第26回総会学術大会を終了して

第26回大会長 大 屋 信 義

平成18年7月22日～23日の2日間にわたり、第26回総会学術大会を開催しました。当日は曇り空、いつ雨が降ってきてもおかしくないような天気でした。何とか、懇親会まではと実行委員皆が祈る状況でした。

当日発表演題数は、98題というきわめて多くの演題を提出頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。今回の一般研究発表演題については、発表スライドをそのまま印刷し展示することを実行委員会にて提案し、65演題で承諾頂きました。この企画は、3会場で同時進行であったため、聴講したい演題が重なった場合のこと、勤務の都合で聴講できなかった場合のこと、展示ブースの業者の方も会員であるが、聴講できない場合のことを考慮し実施しました。お陰さまでたいへん好評でありましたことを報告させていただきます。

懇親会は、博多湾クルージングを企画し、実に211名の参加者を得ました。幸い雨も降らず、花火を見ることができ、一時の癒しの時間を過ごされた方が多かったことと思います。

総参加者数は、502名でした。関東・近畿地区からは、100名を超える参加を頂き、たいへん有り難く思いました。学生会員も17名の参加で、学生の側から見た評価も気になるところです。

実行委員会としても特にたいへんだったのが、PCセンター担当だったようです。事前にスライドデータを取り寄せてはいたものの、当日の修正・差し替えが予想以上に多かったことに戸惑ったようです。またこれから座長・演者になられる方へお願いですが、必ず決められた時間、場所に居て下さい。今回も会場担当者がかなり苦勞していたようです。聴衆の皆さんに特に注意して頂きたいことは、写真・ビデオ撮影に関しては、基本的には禁止していたにも係らず、これが守れていないことです。

学会として常に成長や発展を遂げるためには、他の学会との生存競争に勝ち残るための危機感をもつこと、他の学会にはないこの会らしさを示すこと、会員が希望を持てる学会にすることが必要です。今後も学会に参加する会員から“こういう学会に変わったことが何よりうれしい”という言葉が聴かれるように常に能動的に変革を続ける会であることを希望しています。